琉球大学学術リポジトリ

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に向けた取組：管理職等研修会と沖縄県宜野湾市立普天間第二小学校での取組を中心に

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学大学院教育学研究科
	公開日: 2020-04-15
	キーワード (Ja): 社会に開かれた教育課程, 教科等横断的な視点, 資質・能力の育成, カリキュラム・マネジメント
	キーワード (En):
	作成者: 白尾, 裕志, Shirao, Hiroshi
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45633

【実践研究】

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に向けた取組
―管理職等研修会と沖縄県宜野湾市立普天間第二小学校での取組を中心に―

白　尾　裕　志[1]

Training for upbringing of the quality and the ability by the way to interdisciplinary perspective.
―Focusing on an analysis of a management workshop and a workshop at Futenmadaini elementary school.―

Hiroshi SHIRAO[1]

要　約

次期学習指導要領は小学校では2020年度から，中学校では2021年度からの完全実施となる．各学校や教育委員会では完全実施に向けた研修等に力を入れ始めている．「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」等の複数の概念から成る学習指導要領は，地域との連携・協働を基に計画，実践，評価を通した教育課程の改善を軸に学校教育の充実を図るものである．次年度以降の完全実施に向けて学習指導要領そのものの理解と準備について，目指す資質・能力の育成を踏まえた各学校の教育目標の明確化の手立てと教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を中心に本学のアドバイザリースタッフ派遣事業で行ってきた．本論では沖縄県教育庁島尻教育事務所が主催する管理職等研修会と宜野湾市立普天間第二小学校での取組を手掛かりに行った実践を基に成果と課題を示す．

キーワード：社会に開かれた教育課程　教科等横断的な視点　資質・能力の育成　カリキュラム・マネジメント

１．問題と目的

2017年３月に告示された小学校及び中学校の「学習指導要領」（以下，「新学習指導要領」）は，「社会に開かれた教育課程」を基に教育課程の評価による改善を中心に学校教育の改革を進める基本的な立場を明確に示した．また各教科等の資質・能力を明確にして，各学校で目指す資質・能力の育成を求めていることが大きな特徴といえる．そこでは教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を企図した教育課程編成が求められ，カリキュラム・マネジメントを駆使して，主体的・対話的で深い学びの実現を目指すことになっている．一方で「各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね，長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生か」（学習指導要領前文）すことや「全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はない」，「授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく」（『学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』）等は，安心感を与える一方で，学校では何をどのように取り組んだらよいのか必ずしも明確になっていない状況もある．こうした背景から，本年度のアドバイザリースタッフ派遣事業[1)]に寄せられる要望の内，新学習指導要領の総則を中心とした「教科等横断的な視点に立った資質・能力」，「カリキュラム・マネジメント」等が８回になっている（2020年１月末現在）．

本論は様々な概念から成る新学習指導要領についてその特徴を分析して，研修会への具体的提案としてどのような内容を提示するかについて明らかにすることを目的としている．令和元年度の沖縄県教育庁島尻教育事務所主催の管理職等（校長・教頭・教務主任）研修会（以下，「管理職等研修会」）と宜野

[1] 琉球大学大学院教育学研究科専門職学位課高度教職実践専攻

湾市立普天間第二小学校での校内研修等[2]での取組とそこでの成果と課題を基に検討する.

２．新学習指導要領の特徴

⑴「前文」と「総則」が示す教育課程の方向性

新学習指導要領には初めて「前文」が登場した．そこでは教育基本法に示す目標を達成するために,「持続可能な社会の創り手となること」が必要であることと，そのために「社会に開かれた教育課程」の実現を求めている[3]．また続けて「各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね，長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら，児童や地域の現状や課題を捉え，家庭や地域社会と協力して,学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である」として,これまでの教育実践を含めた研究の成果を生かすことを求めている.

これを受けて「総則」では,「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して,「知識及び技能が習得されるようにすること」,「思考力，判断力，表現力等を育成すること」,「学びに向かう力，人間性等を涵養すること」からなるいわゆる「資質･能力の三つの柱」のバランスを図りながら知･徳・体からなる「生きる力」を育むこととされている.

資質・能力の育成は，これを各学校の教育目標として明確化[4]して，カリキュラム・マネジメントを通して計画的に実践，評価，改善を進めることを求めている．また「教科等横断的な視点に立った資質･能力」が求められており，これは「⑵教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成」で言及する.

教育課程編成については「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫」を求め，合科的・関連的な指導の推進や学校段階間の接続への配慮が広がったことも特徴であり，学年毎の内容の収まりではなく連続した資質・能力の育成が期待されている.

さらに「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」では，各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方としての「見方・考え方」を通した学習過程の重視，各教科等の特質に応じた国語科を要とした言語活動の充実,「学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動」の工夫等，学習方法に踏み込んだ示し方をしている.

こうした背景には，教員の年齢構成の急激な変化も挙げられるが，学習指導要領が「学びの地図」としての役割を果たし，カリキュラム・マネジメントを通した教科等横断的な視点に立った資質・能力を企図した教育課程によって「何を知り，何ができるか」を問われ，資質・能力としての定着を目指す能力重視の傾向が明確になっていることを示している.

これは吉富芳正[5]（2016）が指摘した1951年版の学習指導要領での教育課程の定義「学校の指導のもとに，実際に児童・生徒がもつところの教育的な諸経験，または，諸活動の全体を意味している」ことが再認識されることにつながっている．カリキュラム・マネジメントは教育活動の結果,「実際に児童・生徒がもつところの教育的な諸経験，または，諸活動の全体」としての資質・能力の育成を目指すからである．これまで個々の子どもに任せていた学習内容の統合を学校教育全体と各教科等で目指す「資質･能力」として示したことが新学習指導要領の最も大きな特徴といえる.

⑵　教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

新学習指導要領が「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」で目指す資質・能力は,「学習の基盤となる資質・能力」と「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」である[6].

「学習の基盤となる資質・能力」は言語能力や情報活用能力，問題発見・解決能力等のことで「各教科等の特質を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るもの」とされている．これは，各教科等の特色を生かしたそれぞれの授業改善や充実を図りながら，そこで求める資質・能力としての言語能力や情報活用能力，問題発見・解決能力等がそれぞれの教科等及び他の教科等での育成が可能であ

ることから教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成として求められている（図１～３）．言い換えれば，一教科等で授業改善を行いながら進めることには従来と変わりはなく，ただし教科等横断的な資質・能力の育成を意識した授業を展開することになる．言語能力，情報活用能力といった「学習の基盤となる資質・能力」である以上，知識・技能の習得過程を含めた思考力・判断力・表現力等の活用の場が中心になると考えられる．

「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」は環境問題等の現代的な諸課題を題材としたもの[7]で，これも「各教科等の特質を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るもの」とされている．各教科等で現代的な諸課題を題材として活用した授業の充実を図りながら，そこの題材の問題解決を通して必要な資質・能力をそれぞれの教科等での育成が可能であることから教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成として求められている．例えば環境学習を国語科の説明文で扱い，社会科や総合的な学習の時間の環境問題に関わる単元に合わせて資質・能力の育成を図るものである（図４）．

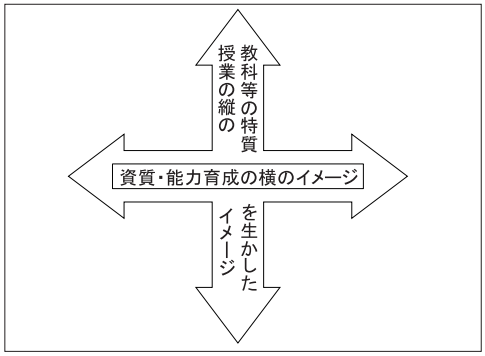


図１

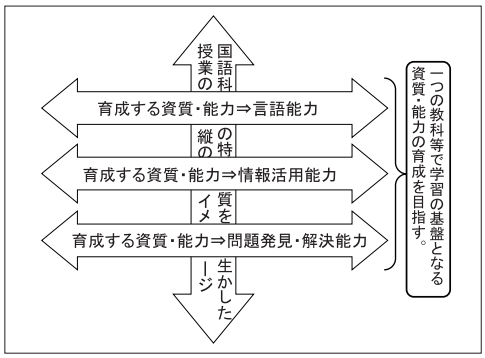


図２

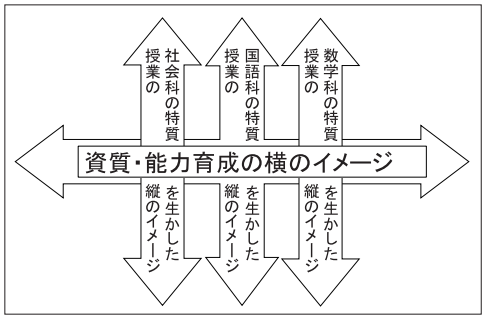


図３

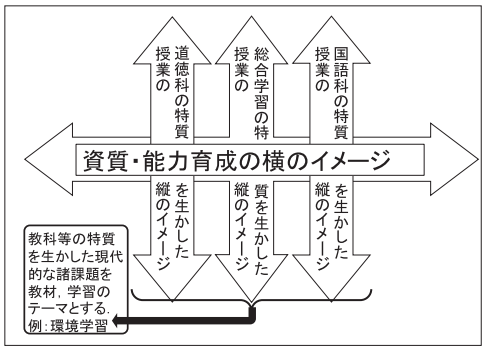


図４

３．研修会での取組

⑴　島尻地区管理職等研修会

令和元年度の島尻教育事務所主催の管理職等（校長・教頭・教務主任）研修会は以下の３回実施され，下記の演題で講演した．

①　５月28日（金）：校長研修会
　演題「新学習指導要領実施で求められる校長のリーダーシップとマネジメント術～グランドデザインとカリキュラム・マネジメントの視点から～」

②　６月27日（金）：教頭研修会
　演題「新学習指導要領実施で求められる教頭のリーダーシップとマネジメント術～グランドデザインとカリキュラム・マネジメントの視点から～」

③　７月８日（月）：教務主任研修会
　演題「新学習指導要領実施で求められる教務主任の企画・調整力～カリキュラム・マネジメントの視点から～」

管理職等研修会を計画するにあたり，島尻教育事務所と打ち合わせを進めた中で確認した課題点は，「カリキュラム・マネジメントにおける管理職等の役割の明確化」「カリキュラム・マネジメントへの教職員への参画」「目指す子供像の全職員での共有」であった．それらを踏まえ，管理職等研修会では，まず新学習指導要領の総則を中心とした構造的な理解と次にカリキュラム・マネジメントがこれまで各学校で取り組んできた教育実践の中で経験し，蓄積されたものであることを教職員相互に確認して，資質・能力の育成の観点から教育実践の蓄積を見直すことで，子どもにどのような力を育てることにつながっていたのかを確認することに重点を置いた．

各管理職等研修会は島尻教育事務所が掲げる次のねらいをもって実施された.

> 校長研修会のねらい
>
> 新学習指導要領の完全実施に向けて，校長のリーダーシップとマネジメント術について，カリキュラム・マネジメントの視点から研究を深め校長の経営力を高めたい．具体的には，校長としてリーダーシップを発揮し，目指す児童生徒像を共有してどのような学校の全体計画（グランドデザイン）を描くか，そしてどのようにして教職員を参画させ組織的に取り組むか等，児童生徒の資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの視点から校長の役割を講話や協議を通して共有したい.

校長研修会では，中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（2015年12月）を示し，制度上は新学習指導要領に「社会に開かれた教育課程」での地域との連携・協働が全ての公立学校のコミュニティ・スクール化が前提であることを示した（図５）．また各学校の教育課程が従来通り教育活動の全体（基準･計画･実施内容･方法）を示すものであることに変わりはなく，地域との協働・連携を具体的に提示することと併せて，児童・生徒が学習した教育的諸経験（成果等）を「見える化」するために目指す資質･能力の育成を踏まえた各学校の教育目標の明確化が求められていることを示した.

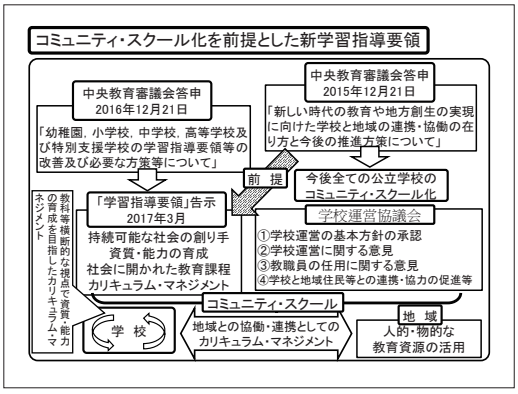


図５

またカリキュラム・マネジメントでの教職員の参画や目指す子供像の全職員での共有については，まず学習指導要領の全体像を示し（図６），カリキュラム・マネジメントが校長の方針の下に分担，連携しながら進めることであることを確認し，その上で教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントの主体が教諭や学年であることを示した（図７）.

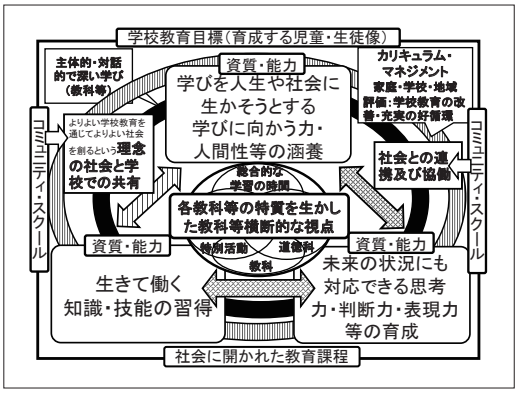


図６

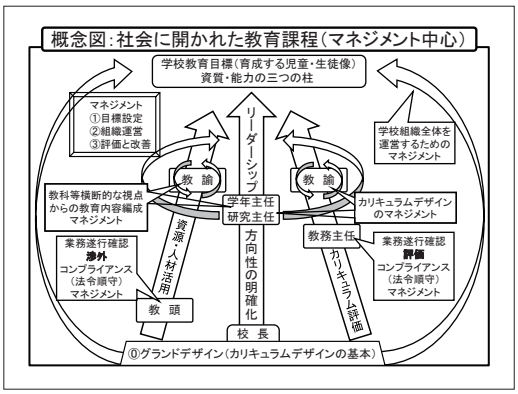


図７

さらに次の２点を特に具体的な視点として示した.

> １）従来の教育実践を資質・能力の育成の観点から見直し，実践を振り返ることで新学習指導要領の取組が全く新しいことではないことの確認.

例として小学校１年生の国語教材「はたらくじどう車」（教育出版）や「じどう車くらべ」（光村図書）など説明文の初歩的な段階の指導に合わせた図工での「はたらくじどう車」の絵画，体育の「表現リズムあそび」として「はたらくじどう車」を取り入れたり，生活科の「身近な人々，社会及び自然と関わる活動に関する内容」としてバスを取り上げたりすることは，これまでも実践されてきた．こうした取組は，学習対象が同じで，教科の特質を生かした活動（迫り方･表現の仕方等）は異なるが，共通する対象をとらえて，思考し，判断し表現する活動を通して，知識にかかわる気付きや表現方法と

しての技能（調べる・まとめる・書く・描く等），対象を興味深くとらえることによる学びに向かう力が複数の教科を通して実践されることになる．ただそれらを比較的近い時期で実践し，そこで育てる力について教科等横断的な視点に立った取組としては十分でなかったかもしれないが，実践としては各教科等の特質を生かした形で取り組まれてきたことを各学校で確認する必要がある．これまでの教育実践を「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」の観点とそれを目指すカリキュラム・マネジメントとして見直すことが重要であることを伝えた．

２）国語科を中心とした短期間の教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指した取組．

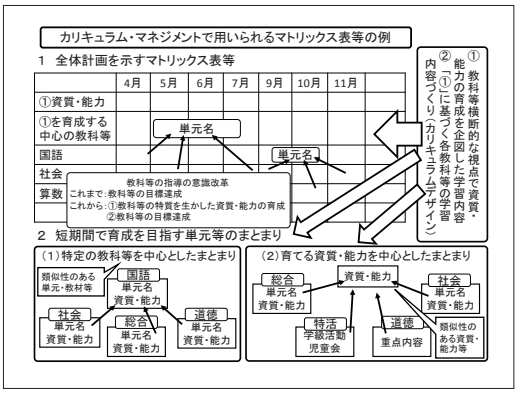


図８

国語科は教科等横断的な視点に立った「学習の基盤となる資質・能力」の育成に向けて要と位置付けられており，各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図ることが求められている．「学習の基盤となる資質･能力」としては，言語能力，情報モラルを含む情報活用力，問題発見・解決能力が挙げられている[8]．これらの資質・能力を育成する過程では学習活動として，予想する，調べる，まとめる（思考･判断･表現：書く・描く），発表する（表現）といったものが共通にあり，教科等や学習対象が異なっても，教科等の特質に応じた学習活動で育てる資質・能力の汎用性が高くなる．

また新学習指導要領には国語科の資質・能力として「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う」ことがあり，これに対応した単元が設定されている．

これらの観点から国語科を中心に時期的に重なりがある各教科等で思考力・判断力・表現力等の育成を目指した短期的な取組を提案した（図８）．

校長研修会では次のようなまとめを行った．

ア　目指す資質・能力の設定過程及び設定理由の説明に各学校の「総合的な学習の時間」の目標との関連を明確にする[9]．

イ　「カリキュラム・マネジメント」に対する先入観（新しいもの）を払拭する手立てとして，これまでの学校や現任校での教育実践について相互に評価する（経験の確認）．

ウ　自分が担当する教科等の目標や内容に閉じた実践を資質・能力の育成のためのカリキュラム・マネジメントの視点から捉え直す．

エ　短い期間（数週間～ひと月）で他教科等との横断的視点を生かして計画し実践し，評価し，改善する．

オ　リーダーシップの下，ア～エを組織として動くように促す．（役割分担／短期間での試行・評価）

教頭研修会のねらい

新学習指導要領の完全実施に向けて，教頭のリーダーシップについて，カリキュラム・マネジメントの視点から研修を深め教頭としての資質を高めたい．具体的には，校長が示した目指す児童生徒像をどのように教職員と共有するか．そして，校長の目指す学校像の実現に向けて，どのようにして教職員を主体的に参画させ，組織的に運営に取り組むか等，児童生徒の資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの視点から教頭の役割を講話や協議を通して共有したい．

教頭研修会では，校長研修会の内容を基に特に「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」「主体的・対話的で深い学び」「見方・考え方」「資質・能力の育成に向けた意識改革」「働き方改革」「中学校での『教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成』の具体化」に重点を置いた内容を提起した．

まず「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」とそれを具体化するカリキュラム・マネジメント（図10）及びその三つの側面[10] について確認して，そこに三つの側面を中心的に担う担当を試案として示した（図９）．

〔カリキュラム・マネジメントの三つの側面〕

① 児童（生徒）や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと．

② 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと．

③ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと．

①は各教科等の特質を生かした教科等横断的な視点からの教育内容の構成（カリキュラムデザイン）であり，②は教育課程の実施状況の評価と改善を目指したPDCAサイクルによる実施，③は教育的資源の活用となる．

「主体的・対話的で深い学び」（図11）については「深い学びの鍵」[11] としての「見方・考え方」とセットで示し，中央教育審議会教育課程部会各教科等ワーキングのまとめにおける『見方・考え方』を配布資料に追加した（表１）[12]．

さらに教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成の例として複数の教科による中学２年の２学期を想定した構想案を示した（図12）．

構想案では，教科としての指導を確実に行うことを前提に思考・判断・表現の場での共通性はないかという視点からそれぞれの教材を見直す．その過程で思考を通した表現の場としての共通性を確認して，４教科で共通に目指す「思考を通した表現力」を「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」として位置付ける．教科と特質に従った各教科の表現の観点を仮に次のように想定する．

国語：描写・比喩	理科：対比・変化
数学：二つの関係	英語：表現の選択と構

これに基づいてまず４教科で共通に目指す「思考を通した表現力」を意識して工夫した各教科での指導を行う．次に資質・能力の育成として共通に目指した「思考を通した表現力」の分析・検討を行うものである．

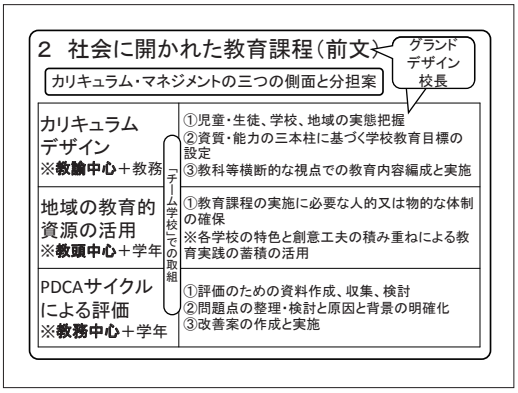


図９

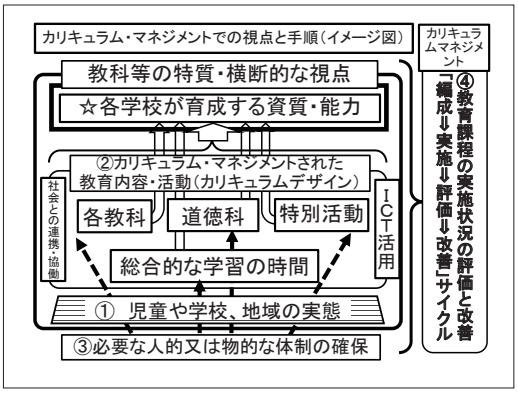


図10

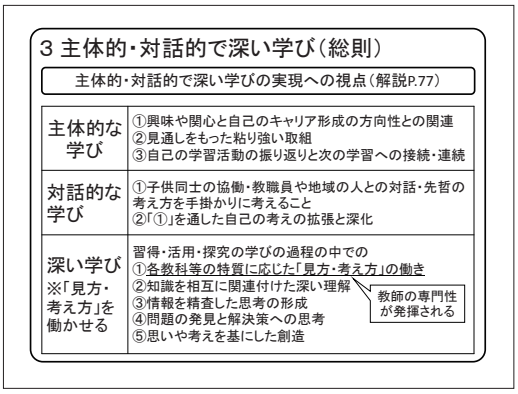


図11

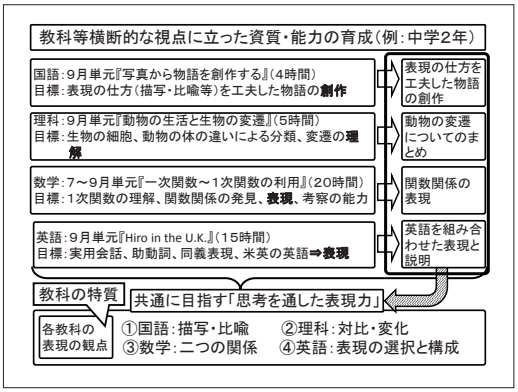


図12

表１　「中央教育審議会教育課程部会各教科等ワーキングのまとめにおける『見方・考え方』（小学校）」

教科等	見方・考え方	中教審教育課程部会各教科等ワーキングのまとめにおける「見方・考え方」
国語	言葉による	自分の思いや考えを深めるため，対象と言葉，言葉と言葉の関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉え，その関係性を問い直して意味付けること．
社会	社会的な	社会的事象を位置や空間的な広がり時期や時間の経過に着目して捉え事象や人々の相互関係比較・分類したり総合したり地域の人々や国民の生活と関連付ける．
算数	数学的な	○「数学的な見方」：事象を，数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること． ○「数学的な考え方」：目的に応じて数・式，図，表，グラフ等を活用し，論理的に考え，問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識・技能等を関連付けながら統合的・発展的に考えること． ○「数学的な見方・考え方」：事象を，数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，根拠を基に筋道を立てて考え，統合的・発展的に考えること．
理科	自然に親しみ理科の	身近な自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの問題解決の方法を用いて考えること．
生活	身近な生活に関わる	身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，比較，分類，関連付け，試行，予測，工夫することなどを通して，自分自身や自分の生活について考えること．
音楽	音楽的な	音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や文化などと関連付けること．
図画工作	造形的な	感性や想像力を働かせ，対象や事象を，形や色などの造形的な視点で捉え，自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと．
家庭	生活の営みに係る	家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること．
体育	体育や保健の	○意義や特性に着目して，楽しさや喜びを見出すとともに体力の向上に果たす役割を捉える． ○公正，協力，責任，参画，共生，健康・安全といった視点を踏まえる． ○自己の適性等に応じて「する・みる・支える・知る」等の多様な関わり方について考える．
外国語	外国語によるコミュニケーションにおける	外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，目的・場面・状況等に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること．
特別の教科道徳	道徳的諸価値の理解を基に	様々な事象を，道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え，自己の（人間としての）生き方について考えること．
外国語活動	外国語によるコミュニケーションにおける	外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，目的・場面・状況等に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること．
総合的な学習の時間	探究的な	各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用して，広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること．
特別活動	集団や社会の形成者としての	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して，集団や社会における問題を捉え，よりよい人間関係の形成，よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること．

教務主任研修会のねらい

新学習指導要領の完全実施に向けて，教務主任としての企画・調整について，カリキュラム・マネジメントの視点から研究を深め教務主任としての職能（企画・調整力）を高めたい．具体的には，管理職が作成した全体計画（グランドデザイン）をどのように教職員で共有するか，どのようにして職員が学校運営に参画し組織的に取り組むか等，児童生徒の資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの視点から教務主任の役割を講話や協議を通して共有したい．

教務主任研修会では，教育課程編成とカリキュラム評価の中心的な役割がある教務主任に対して，これまでの資料を基にさらに具体化し，特に「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」の理解の充実を図り，図１から図４を示した．また公立小中学校のコミュニティ・スクール化が前提であることを示し（図５），加えて社会教育との関連を示した（図13）．

「主体的・対話的で深い学び」については，表１から深い学びの鍵となる「見方・考え方」が重要であることを示して，小学校国語科の教材「ごんぎつね」の最後の場面での指導を通して，教材文を国語の「見方・考え方」に示される「対象」や「言葉」を使って発問で示した授業場面について具体的な提案を示した（図14～16）．

これは国語科の「言語による見方・考え方」を表１の中央教育審議会教育課程部会各教科等ワーキングのまとめにおける『見方・考え方』に基づいて，教材文を「対象と言葉」の視点から捉えて授業化したものである．登場人物の「ごん」を対象として，地の文の中に「ごん」の視点「兵十はかけよってきました」（言葉）があることを確認して，登場人物「ごん」の気持ちを考えて物語の主題に迫る授業[13]である．

新学習指導要領の実施に向けて考慮しておくこととしていわゆる「働き方改革」がある．この点については校長研修会，教頭研修会でもふれた．新学習指導要領で求める教育は「これまで地道に取り組まれて蓄積されてきた実践を否定し，全く異なる指導方法を導入しなければならない捉える必要はない」[14]と示されているように新しい指導方法を求めているのではなく，これまでの教育実践を資質・能力の育成の観点から捉え直してカリキュラム・マネジメントに基づく「社会に開かれた教育課程」とすることである．学校や教職員に新たな負担を強いる学校改革であってはな

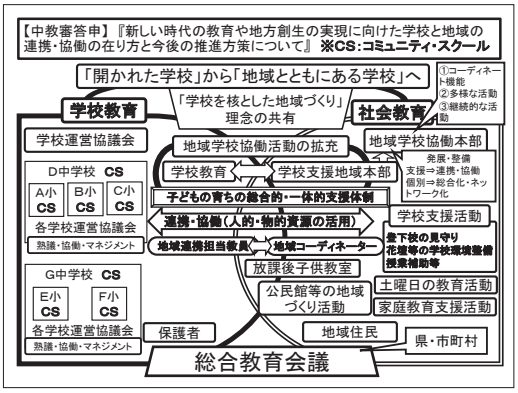


図13

国語科の見方・考え方を使った発問　図14

国語：文章を中心に表現された人物や事実、関係、価値等への考察と文章の構成を方法や表現として学ぶ。

学習対象への問いかけが発問の中心

物語文⇒主題に関わる人物への発問
（言葉・行動・地の文）

説明文⇒事実の関連に関する発問
（まとめ・言い換え・同意内容）

中教審 教育課程部会
国語ワーキングによる「見方・考え方」まとめ

言語による見方・考え方⇒自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること

図14

小学校国語教材『ごんぎつね』最後の場面（作：新美南吉）

ごんを、ドンとうちました。ごんは、ばたりとたおれました。兵十はかけよってきました。うちの中を見ると、土間にくりが固めて置いてあるのが、目につきました。
「おや。」と兵十はびっくりして、ごんに目を落としました。「ごん、おまえだったのか、いつも、くりをくれたのは。」
ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。兵十は、火なわじゅうをばたりと取り落としました。青いけむりが、まだつつの口から細く出ていました。

図15

主な二人の登場人物

ごん：兵十に償いをしたい
兵十：いたずらきつね
理解し合えないまま最後の場面へ

指示：ごんが鉄砲で撃たれて死ぬまでのごんの心の中を想像してます。
教科書に直接的に「答え」は書かれていない。しかし物語の主題に迫る指示。

発問：ごんは目をつぶったままうなづくまでの間に兵十を見ています。どこで分かりますか？
「答え」の手掛かりになる発問
対象：ごん
言葉：「兵十はかけよってきました。」（地の文）

ごんの視点：兵十はかけよってきました。

指示：ごんは見ていたんですね。兵十が理解してくれたことを分かって、ごんは死んでいきます。死ぬまでのごんの心の中を想像してみましょう。
見方・考え方を使った発問からの深い学び
個人やグループ、学級での交流や意見交換を通して主題に迫る。

ごんの視点によって想像することで主題に迫る

図16

らない．そのことを確認し，働き方改革関連法案が成立するまでの経緯を概観して，新たな業務は「スクラップ・アンド・ビルド」[15] を原則とすることを確認した（図17・18）．

また，学校の教育活動を学校教育目標の資質・能力の育成の観点から見直し，従来の業務を連携，整理・統合の観点から問い直しながら進めることを示した．

そうした上で改めて新学習指導要領で求められる育成する資質・能力の育成を踏まえた学校教育目標の明確化に言及して，現状と今後求められるものから学校教育目標の設定の方策について提起した（図19）．

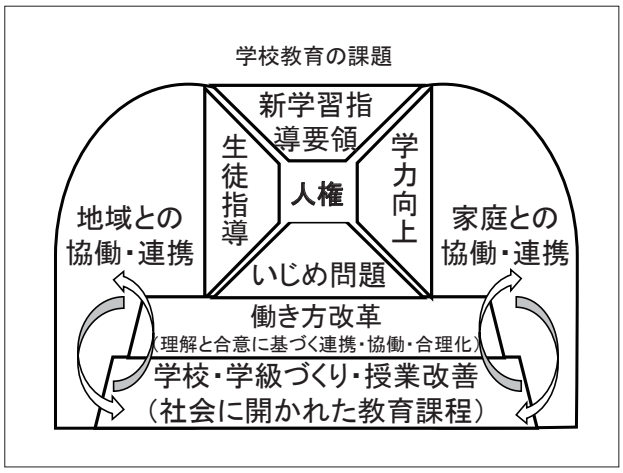


図17

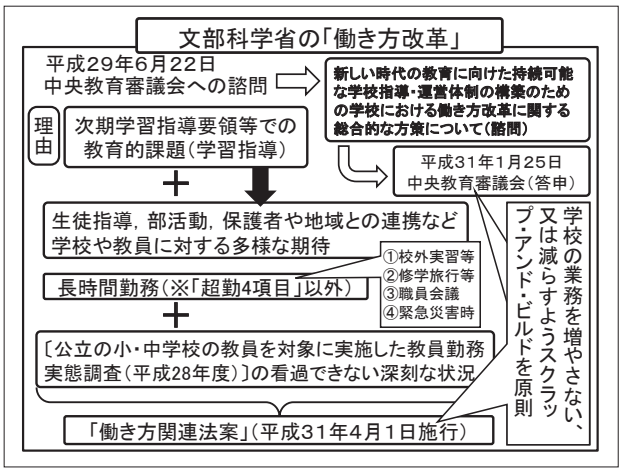


図18

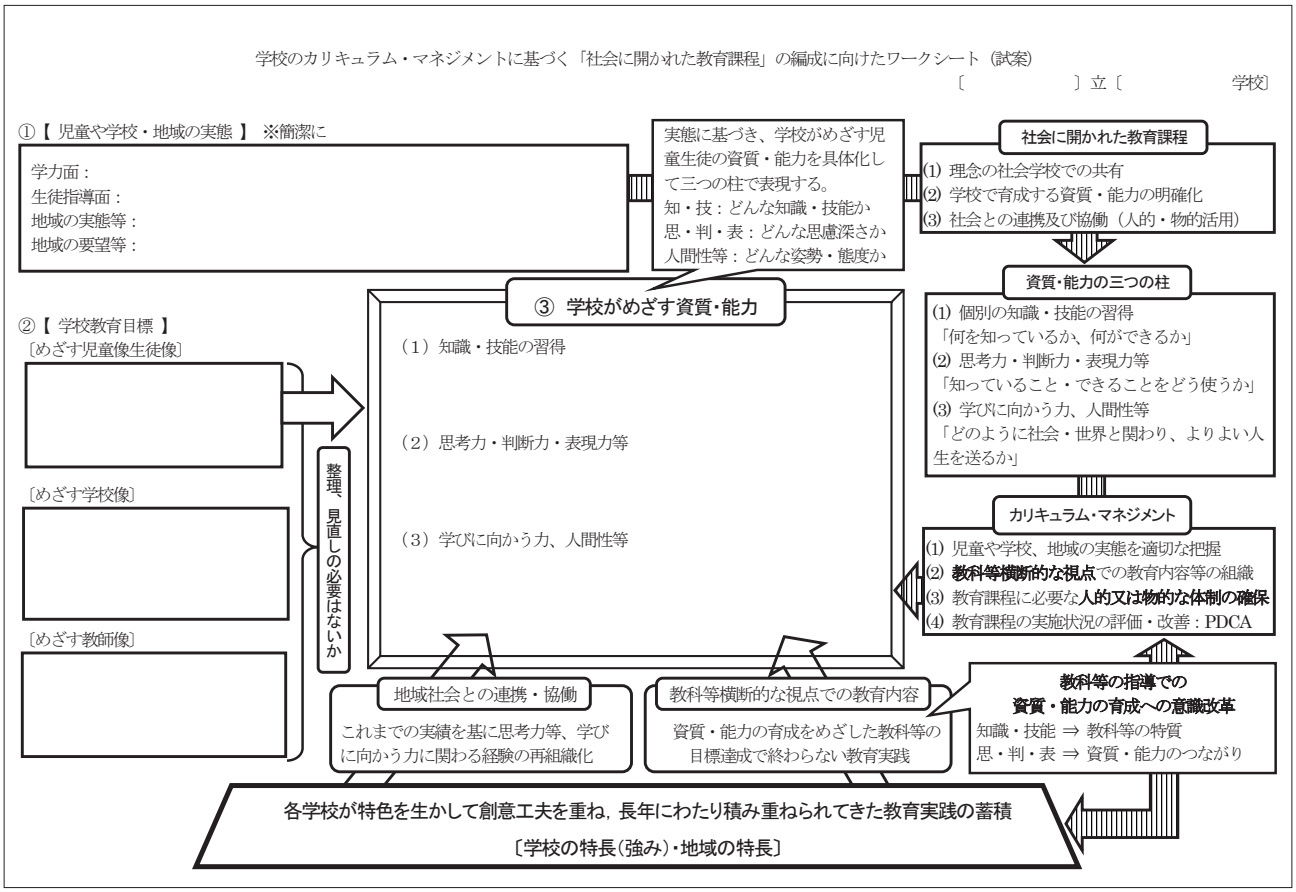


図19

最後に教科等横断的な学習や国語科を中心とした教科等横断的な視点から構想するカリキュラム・マネジメントの方策を示した（図20・21）.

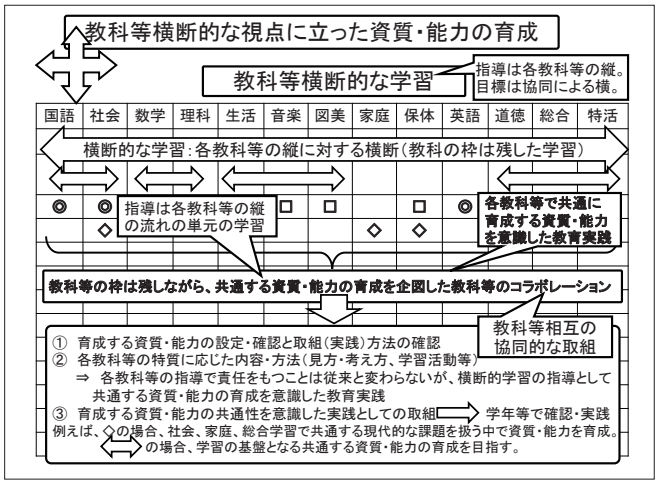


図20

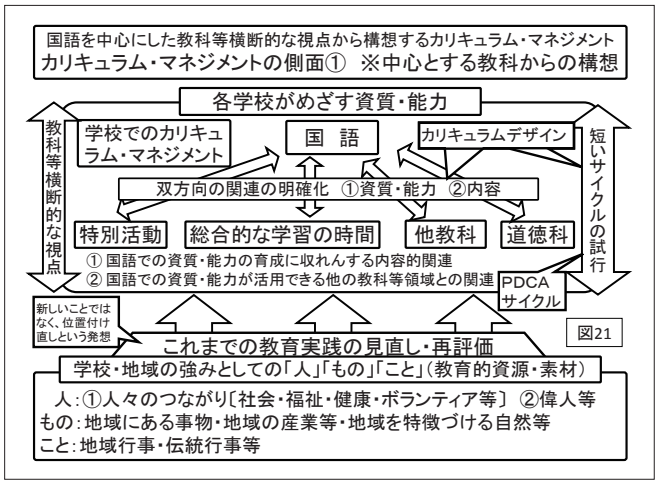


図21

〔管理職研修会での課題等〕

管理職研修会では校長，教頭，教務主任と進むにつれて具体化が常に求められた．またアンケートには以下のものがあった．

〔校長〕

カリキュラム・マネジメントは新しいものではなくこれまでの実践や経験の成果を積み上げているものとして捉え，教師に短い期間での教科横断的な実践での成功体験で意欲向上に努めたいです．校長としてリーダーシップを発揮して，資質・能力の３つの柱に沿って学校教育目標の見直し，グランドデザイン等について職員と共有したいと思います．

〔教頭〕

学校の目指す生徒像，学校目標を新学習指導要領に照らし合わせ，育成すべき資質能力，各教科の身につけるべき資質・能力をグランドデザインし，カリキュラム・マネジメントする視点を学ぶことができました．中学校においてはまず，教科の深い学び，見方・考え方を各教科でしっかりおさえ，教科以外にも共有することが大切であることが理解できました．

〔教務主任〕

教科それぞれが生徒の資質・能力を育成するために，教務主任として何をするべきか考えさせられました．職員の個性を活かせるような調整と，常に先を見て提案できるよう努力していきたいと思います．

新学習指導要領の完全実施に向けて，管理職等はそれぞれの立場でやるべきことの方向性の確認はできている．「カリキュラム・マネジメントは新しいものではなくこれまでの実践や経験の成果を積み上げているもの」として捉え，これまでの教育実践を資質・能力の育成の観点から問い直し，今後の教育課程編成に活かしていくことが重要である．また「中学校においてはまず，教科の深い学び，見方・考え方を各教科でしっかりおさえ，教科以外にも共有することが大切であること」に示されるように「深い学びの鍵」となる見方･考え方を共有していくことが，教科の枠組みから資質･能力の育成につながる．課題はそれらを具体化し，教育課程編成や教育実践に落とし込んでいくことであり，そのためにも「短い期間での教科横断的な実践での成功体験」の蓄積が求められる．

⑵　宜野湾市立普天間第二小学校校内研修

先の管理職研修会で具体化した資料を基に，前半は資料での説明をして，後半は実際に教育課程と教科書を並べて２学期以降に実施する教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に向けた教育内容編

成を演習として行った．学年毎に分かれてまず図22にアイデア出し合い，図23にまとめるようにして以下の手順で行い発表し合った．

① 国語科の単元から「学習の基盤となる資質・能力」または「現代的な課題に対応して求められる資質・能力」につながる単元を選択する．

② 他教科等の単元から国語科と共通する，あるいは関連がある「学習の基盤となる資質・能力」または「現代的な課題に対応して求められる資質･能力」につながる単元を選択する．

③ ①と②から２教科等以上の単元の組合せを構想する．

④ 余白に関連するイメージ等を書き入れ，左側に単元名を書き入れて線で結ぶ．

【 １学期の国語を中心とした教科等横断的な視点での資質・能力の育成を目指した組合せ試案 】

算　数	生活・総合的な学習の時間	社　会
	国　語	
理　科		音　楽
体　育		図画工作
家　庭		外国語
特別活動		特別の教科　道徳
学級活動	児童会　クラブ活動　学校行事	

国語を中心とした教科等横断的な視点での資質・能力の育成を目指した組合せ試案
関連した資質・能力の育成に向けての学習活動を通した組み合わせ構想・素案

〔手順〕
① 国語科の単元から「学習の基盤となる資質・能力」または「現代的な課題に対応して求められる資質・能力」につながる単元を選択する。
② 他教科等の単元から国語科と共通する、あるいは関連がある「学習の基盤となる資質・能力」または「現代的な課題に対応して求められる資質・能力」につながる単元を選択する。
③ ①と②から２教科等以上の単元の組合せを構想する。
④ 下の余白に関連するイメージ等を書き入れ、左側に単元名を書き入れて線で結ぶ。

図22

令和元年７月24日

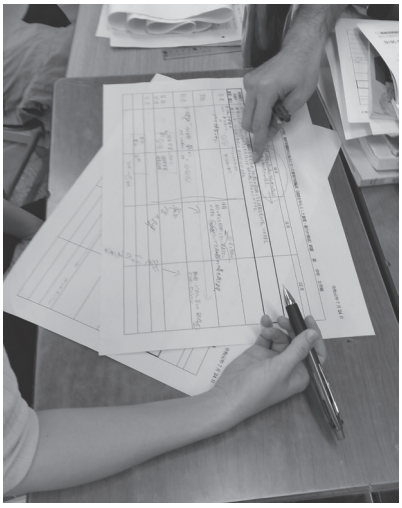
宜野湾市立普天間第二小学校　教科等横断的な視点に立った教育内容編成〔国語を中心とした資質・能力の育成〕試案　　第　　学年　２学期

学校の資質・能力				
	９月	10月	11月	12月
国語				
短期間で目指す資質・能力	(1) (2) (3)			

図23

資質・能力の三つはいろいろな教科で身に付けることができるということを改めて考えることができました．新学習指導要領になったら，教育方法も新しく変えないといけないと思っていたが，そうではないということを知ることができた．授業で上手くいった際に「上手くいった」という気持ちで終わってしまう自分がいたので，そうではなく「なぜ上手くいったのか？」分析することで，次の授業，他の教科につなげていくことができる．

授業の導入の際に，児童が書いた「振り返り」を提示することで，児童の意欲も高まり，児童主体で授業を進めることができると考える事ができ，２学期からそのやり方で授業を進めていこうと思いました．国語の学習から他の教科につなげることができることを知り，もっと深い学びができるということを知れてよかったです．



〔教職員のアンケート回答〕

今日は新学習指導要領の改訂のポイントをお話してくださるということで，どう変わるか，今までの指導法などがどのくらい活用できるのか等，とても気になっていました．今日の講話を聞いて強調なさっていた「今までやってきたことを意識して取り入れていく」という言葉がとても印象的でした．また，国語の教材「ごんぎつね」で視点論を教えて頂いて，私自身，この視点で教材分析をしたことがなく，とても勉強になりました．児童の学びも深まるので，物語文でそこを意識して取り組んでいきます．後半では学年で計画を立てましたが，一つの教科で教えたものを他の教科にもつなげていくという考えは，今までも聞いて意識してきたつもりでしたが，今日の演習でさらに深まり，その視点を意識して児童に指導することは，さらに児童の学びを深めていくことにつながると実感しました．今日の学びを活かして２学期以降取り組んでいきます．

「どう変わるか，今までの指導法などがどのくらい活用できるのか等，とても気になっていました」に示されるように新学習指導要領の具体的なイメージがもてない状況は共通していた．それは「新学習指導要領については，採用試験勉強や初任研の講話などでたくさん学んできましたが，情報過多で知識としては理解できるけれども，現場でそれをどう生かすか，何をすればよいのかが分からず困っていました」に代表される新学習指導要領の情報過多の状態が実践化の具体性を見通せない状況を作り出していることにつながっていた．今回，演習として「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」を短期間での実践を構想することを通して，「一つの教科で教えたものを他の教科にもつなげていくという考えは，今までも聞いて意識してきたつもりでしたが，今日の演習でさらに深まり，その視点を意識して児童に指導することは，さらに児童の学びを深めていくことにつながると実感しました」に示されるように資質・能力の育成を中心とした新学習指導要領の具体化を図ることができた．

５．おわりに　～目標としての資質・能力の明確化による教育課程の評価の実質化～

生活科が創設された1989年の『小学校学習指導要領』の総則では，「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」が求められ，「総合的な学習の時間」が創設された1998年の『小学校学習指導要領』の総則では，「生きる力」を「創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で，自ら学び自ら考える力の育成を図る」ことが求められた．2008年の『小学校学習指導要領』の総則では，これまでの表現に「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむ」ことが加わった．そして新学習指導要領が求めているのが，育成する資質・能力を明確にした社会に開かれた教育課程を軸とした学校教育の改善・充実である．2008年版の学習指導要領までの経緯は，教科等の改廃や創設を通して教育の結果としての総合的な能力の育成に向けた教育課程の改善を示すものであり，その方向性は2017年版の学習指導要領にも踏襲されている.2008年版の学習指導要領までは，総合的な能力の育成のために教育内容が領域化することで示してきたが,2017年版の学習指導要領は,目標としての総合的に求める能力を「資質・能力」として明確化し，それらを含んだ教育課程が，これまでの教育実践や学術研究の蓄積を生かす形で目標，内容，方法が具体化されたことで教育課程の評価も具体化され，教育課程の改善が実質化する契機となっている．

戦後初めての学習指導要領全面改訂が行われた1951年の学習指導要領では，教育課程の改善について次の言及がある．

> 「教育課程は，このように，それを絶えず評価することによって，常に改善されることになる．したがって教育課程の評価と教育課程の改善とは連続した一つの仕事であってこれを切り離して考えることはできない．この意味において，教育課程の評価は，教育課程の計画，その展開とともに，児童・生徒の学習を効果的に進めていく上に欠くことのできない仕事である。」[16)]

教育課程の改善の必然は，戦後直後のカリキュラム研究を踏まえて1951年の学習指導要領でも示されたが，2017年版の新学習指導要領によって学校が目指すべき統合的な能力を「資質･能力」として整理，また教科等毎に具体化されることで，目標を中心とした内容，方法が一体化し,明確な評価が可能な具体性を伴った教育課程として示された。

今後は校内研修の担当者を集めた研修会等でも演習を取り入れて，授業づくりやカリキュラム・マネジメント等，新学習指導要領の理念を具体化する取組に加えて，教育課程の評価を実質化するための工夫改善を試行したい．

［注］

1）「琉球大学教育学部と教職センターが大学と地域社会の連携を目指し，大学が有する研究活動の成果を地域に還元することを目的として実施」.（『2019年度　アドバイザリースタッフ派遣事業』）
2）他に沖縄県立ろう学校，座間味村三校合同小中学校研修会，島尻教育研究所主催「夏季自主参加講座」がある.
3）「社会に開かれた教育課程」はコミュニティ・スクールを前提としている．新学習指導要領の公示の１年以上前に全ての公立学校のコミュニティ・スクール化が示されている．中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（2015年12月21日）
4）目指す資質・能力の育成を踏まえた各学校の教育目標の明確化では，各学校が定めた総合的な学習の時間の目標との関連を図ることが求められている．資質・能力の育成を中核に能力重視の傾向が特徴としてうかがえる．（『小学校学習指導要領（平成29年告示)』，文部科学省，p.19）
5）吉冨芳正，『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』，ぎょうせい，2016年，p.14
6）『小学校学習指導要領（平成29年告示)』，文部科学省,2017年，p.19
7）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』，文部科学省，2018年，pp.52-53
8）『小学校学習指導要領（平成29年告示)』，文部科学省，2017年，p.19
9）『小学校学習指導要領（平成29年告示)』，文部科学省，2017年，p.19
10）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』，文部科学省，2018年，pp.39-40
11）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』，文部科学省，2018年，p.4
12）中央教育審議「教育課程部会　学校段階等別・教科等別ワーキンググループ等における審議の取りまとめについて（報告)」（2016年８月26日）から作成.　〔最終閲覧日：2019年７月18日〕
13）川野理夫，『国語科教育の理論と実際』，（松本金寿・柴田義松編，国土社，1982年），pp.185-186
川野は「当然，〈兵十はかけよっていきました〉と，遠のき態でかかれなければならないのに，近づき態にされているのはどうしてだろうか」と指摘して，主題との関わりを説明している.
14）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』，文部科学省，2018年，p.4
15）「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申)」2019年１月25日，pp.30-31
〔最終閲覧日：2019年７月27日〕
16）『学習指導要領一般編（試案)』，文部省，1951年，p.15

［文献］

○　中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（2015年12月）〔最終閲覧日：2019年７月18日〕
○　『小・中学校学習指導要領（平成29年告示)』（文部科学省）
○　『小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』（文部科学省）
○　『「社会に開かれた教育課程」を実現するために必要な方策について』
（中教審教育課程部会資料５，平成28年４月20日）〔最終閲覧日：2019年７月28日〕
○　『社会に開かれたカリキュラム』（石村卓也，晃洋書房，2018年）
○　『カリキュラム・マネジメントと教育課程』（金馬国晴，学文社，2019年）
○　『実践・カリキュラムマネジメント』（田村知子，ぎょうせい，2011年）
○　『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』（田村，村川，吉冨，西岡，ぎょうせい，2016年）